Arai HELMET
Racing Specialities

保存版

FIM RACING HOMOLOGATED HELMET

RX-7X FIM RACING #2

取扱説明書

ご使用前に必ず本書をお読みください

本書はヘルメットの使用方法、お手入れ方法、使用上の注意を説明しています。正しくご使用していただくため、最後までよくお読みください。また、本書はいつでも読み返せるよう、大切に保管してください。万一、本書を紛失された場合は、弊社『品質管理部』までお問い合わせください。製品の改良などにより、お客様に予告なく仕様の変更を行う場合がありますのでご了承ください。

本書の各図記号は以下のような意味を表しています

注意 危険

左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、ヘルメットを破損させ、安全装備としての機能を低下させる可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

本製品は日本国内仕様です、国外では使用しないでください。尚、他国には各々の国で必要となる法律、規格等が定められており日本国内仕様である本製品は適合していません。

安全のため、守って頂きたいこと

このたびはアライヘルメットをお選びいただき、誠にありがとうございます。私たちは、日本で最も長い歴史を持つヘルメットメーカーとして、その名に恥じない製品づくりに取り組み、多くのライダーの安全に貢献できるよう、日々邁進しております。ただし、どれほど厳しい基準で製造したヘルメットであっても、すべての事故から完全に身を守れるわけではありません。ヘルメットは「万一の際に危険の度合いを減らす装備」であり、「安全を支える要素のひとつ」にすぎません。ご使用にあたっては、以下の注意事項をよくお読みいただき、常に安全を意識して運転されますようお願い申し上げます。

▼ヘルメットを購入する際は、必ず適切なサイズをお選びください。

安全のためには、「自分の頭にピッタリ合ったサイズのヘルメットをかぶる」ということがとても大切です。緩すぎたりキツすぎたりしてヘルメットのサイズが自分の頭に合ってない場合、ヘルメットは安全性能を十分に発揮することができません。下記のポイントを参考にヘルメットをお選びください。

●ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。ヘルメットは同じサイズ表示であっても、オープンフェースやフルフェース等タイプが異なると、かぶった際のフィット感も異なります。

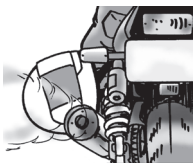
●ヘルメットをかぶった状態で頭を前後左右に振っても、頭の動きに対してヘルメットがワンテンポ遅れずにしっかりと追従すること。

●ウレタン素材等の進歩によって、「少しきつめを選んでおけば、使っているうちに馴染んで緩くなる」といった事は、最近ではあまり期待できません。サイズ選びの際にはヘルメットをかぶった際の内装のフィット感が全体的に均一であり、尚且つ頭部に部分的な締め付けや圧迫などを感じないサイズのヘルメットをお選びください。

▼あご紐は緩みのないように適切に締めてください。

転倒した際、頭に受ける衝撃の方向は予想することができません。ヘルメットを脱がすような方向からの衝撃や、大きな衝撃が来た際にヘルメットの保護性能を最大限発揮できるよう、ヘルメットをしっかりと頭に固定することがあご紐の役目です。ヘルメットをかぶっていても、あご紐を緩みのないように適切に締めていなければ、ヘルメットをかぶらない状態と同じであり、大変危険です。※詳細は、あご紐の締め方をご覧下さい。

▼ヘルメットの持ち運び方



ヘルメットホルダーにヘルメットを吊り下げたまま走行すると、ヘルメットと車体との干渉により車体可動部の動きを妨げるおそれがあります。そして、ヘルメット本体や車体とヘルメットを繋いでいるあご紐も傷つけるおそれがあります。また、ヘルメットを持ち運ぶためにヘルメットの窓に腕を通したり、あご紐で腕に吊り下げて運転するのもオートバイの操縦に支障をきたしますので絶対におやめください。

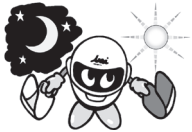
▼あご紐（ストラップ）のコンディションに注意してください。

あご紐は安全の要です。短くて硬いアゴ髭と長時間接触したり、路面等の硬いものと擦れたり、ライディングジャケット等の襟部分の面ファスナーなどに触れると繊維が徐々に千切れてあご紐に毛羽立ちが生じます。あご紐に毛羽立ちやほつれが生じた場合は、穴あけ等の改造や転倒による痕跡がなければ、弊社アフターサービス窓口にてお預かりによる交換修理を承ることができます（修理対象モデルに限ります）。弊社ホームページ〈修理受付フォーム〉より、ご確認いただきお申込みください。

※あご紐の修理代金とヘルメットの往復送料は、お客様のご負担となります。

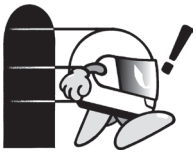
あご紐が毛羽立ったままでヘルメットを使い続けると、ほつれが進行して変形する恐れがあります。変形したあご紐では装着時の締め付けが不十分だったり、衝撃を受けた際にDリングから抜けるおそれがあり大変危険です。

▼走行条件に合ったシールドをお選びください。※シールドを装備したヘルメットに限ります。



周りが暗くなった状態でスモークシールドを装着して走行すると、視界が悪化し状況判断しにくくなり大変危険です。長距離ツーリングなどで夜間も走行する場合は、アライヘルメット純正クリアーシールドもしくは、ライトスモークシールドに交換してください。尚、外したシールドは傷を付けないように注意してください。

▼走行中の急激な環境変化に注意してください。※シールドを装備したヘルメットに限ります。



走行時におけるヘルメット内の温度は、ほぼ一定ですが、ライダーは高速で移動しているため周辺環境（気温・湿度）は常に変化しています。そのため、峠道などの高低差が生じる道路、または突然の雨やトンネルに入った(出た）瞬間、ヘルメット内部と周辺環境の急激な温度変化により、シールド面（外面か内面かは状況によって変わります）に結露（露付き現象）が発生し、急激に曇ってしまう場合があります。このような状況が予想される時にはシールドを微開にしておき、予めシールド内外の温度差を少なくしたり、安全を確保できる走行スピードに調節するなどの注意が必要です。

▼ヘルメットを塗装する際の注意

ヘルメットを塗装する際は、以下の点にご注意ください。まず、ヘルメットの表面を食器洗い用中性洗剤で洗い、汚れや油分を落としてから８００番程度のサンドペーパーで表面を研磨します。尚、ヘルメット内の衝撃吸収ライナー（発泡スチロール製）は塗料に含まれる溶剤によって溶けてしまい衝撃吸収性が失われてしまいますので、塗料が染み込まないように入念にマスキングしてください。ヘリ部分、ホック類、ネジ孔なども同様にマスキングして、ご使用になる塗料の説明書にしたがって塗装を行ってください。但し、乾燥時に５０℃以上の熱を必要とする塗料はご使用できませんのでご注意ください。尚、ホルダーやダクト等の樹脂成型パーツの塗装は、必ずポリカーボネート樹脂用の塗料と溶剤をご使用ください。

▼ヘルメットの高温乾燥はお控えください。

ヘルメットを５０℃以上の熱に曝すと素材に変形や変質が生じ、ヘルメットの性能を大きく損ないます。ヘルメット全体、または取り外した内装を、業務用乾燥機・ドライヤー・ストーブ・各種ヒーター類・電子レンジ・オーブン・各種バーナー、トーチ類・直火などで絶対に乾かさないでください。また、衣類乾燥機、洗濯乾燥機による内装の乾燥も、その乾燥温度が５０℃以上に達する場合は使用をおやめください。

▼ヘルメットの改造や、部品を外したままでのご使用は絶対におやめください。

ヘルメットの基本構造は頭を何らかの物質と空間で覆い、頭を保護するものです。安全性を高める為には、より多くの物質、空間が必要となり、したがって安全性の代償として僅かとはいえ視界・聴力・運動性が損なわれる可能性があります。例えば、ヘルメットをかぶると音が聞こえにくく感じる例があげられます。これは周波数の高い音がクッション材などによって吸収されて音質が変化するためで、通常の会話などの周波数音はほとんど吸収されません。このことをご理解いただければ、ご支障なく運転ができます。また、帽体に聴音孔をあけたり、パーツを外して走行すると衝撃吸収性能が低下するだけでなく、かえって風切音が大きくなり聴力を妨げる原因となります。メーカーに相談せず帽体や発泡スチロールに孔をあけたり、削ったりするのはおやめください。

▼衝撃を受けたヘルメットの再使用はお控えください。

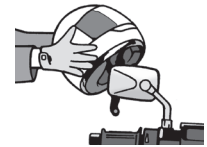
ヘルメットは衝撃を受けると、その一部が壊れることで衝撃を吸収して頭を守るように作られています。したがって、かぶった状態で衝撃を受けたヘルメットは、例え表面に大きなキズ等が見られなくても衝撃吸収のプロセスによって内部構造が破壊されています。一度でも大きな衝撃を受けたヘルメットは継続して使用せず、弊社品質管理部まで事故の状況説明と共にヘルメットをお送り頂き、再使用可能かの検査をご依頼いただくか、新しいヘルメットをご購入ください。※ヘルメットの検査自体は無料です。ヘルメットの往復送料のみ、お客様のご負担となります。

ヘルメット箱や梱包材は修理時の送付に使用できるため、保管をお勧めいたします。

▼走行時のヘルメット操作は危険です。

オートバイで走行中、シャッターの開閉等の操作を行うにはハンドルから一時的に手を離さなければならず、その結果オートバイの運転に支障をきたすおそれがあります。ヘルメットの操作は停車時に行ってください。但し、シールドやサンバイザーの開閉は視界の確保などに必要なので、この限りではありません。

▼ヘルメットをミラーに引っ掛けないでください。



バックミラーにヘルメットをかけると、ミラーの角でシールドが傷付いたり、衝撃吸収ライナーが変形するおそれがあり、変形したライナーは衝撃吸収能力に少なからず影響を及ぼします。また、ヘルメットの上に腰掛けるのも厳禁です。ヘルメット裾部のエッジモールを傷付け、それをきっかけにエッジモールが剥がれたり、削れたりしてヘルメット裾部が露出するおそれがあります。帽体の裾部は硬いので、それを保護しているエッジモールが無いと転倒時に首や肩など身体を傷つけるおそれがあります。

▼ヘルメットは直射日光を避け、湿気の少ない場所に保管してください。

ヘルメットに使用されているパーツ類は、可動部の磨耗や紫外線による素材劣化が生じます。直射日光を避け、湿気の少ない場所で保管してください。また、本書をよく確認し、定期的なメンテナンスを行ってください。特にシールドベースやそれを取り付けるためのネジ、ホルダーやワッシャー類などはとても重要なパーツですので、亀裂や磨耗、破損を発見した場合は、パーツの交換を早急に行なってください。

▼ヘルメットの性能は永久不変ではありません。

ヘルメットは日々の着用に伴い、ヘルメットを構成する素材の老朽、劣化などの経時変化によって、新品時と同じ性能を維持できなくなる場合があります。現在ご使用中のヘルメットに特に不具合が見られなくても、ＳＧマーク※の有効期限である三年を目安に、そのヘルメットの着用を開始した日から数えて三年以上経過したヘルメットは買い替えをお勧めします。※（一財）製品安全協会のＳＧ被害者救済制度

▼ヘルメットを不安定な場所に置かないでください。

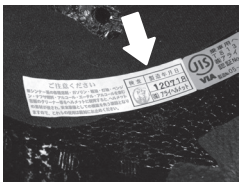
オートバイのタンクやシート上など平面でない滑りやすい場所にヘルメットを置くと、ヘルメットが落下するおそれがあります。ヘルメットは中身が空っぽの状態で1m以下からの落下であれば、性能に大きくは影響しませんが※、落下時にヘルメットの部品が破損した場合、そのまま使用すると走行中に部品が外れるおそれがあります。部品が破損した際には、速やかに新しい部品と交換してください。

※例え1m以下からの落下であっても、同一箇所に複数回衝撃が加わった場合はヘルメットの性能が損なわれます。

▼ペットの近くにヘルメットを置かないでください。

ペットの活動範囲にヘルメットを置かないように注意してください。ペットがヘルメットをおもちゃにして、噛んだり、転がしたり、引きずり回したりする場合があります。また、齧歯類（げっしるい）の場合には内装生地やウレタン製のクッション材を巣作り（寝床）の材料にするために齧り取ったりしてヘルメットを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットから外れた部品などをペットが誤飲するおそれもありますので十分注意してください。

▼ヘルメットの製造年月日について



ヘルメット内面に貼られる検査ラベルに最終検査を行った日付が、そのヘルメットの製造年月日としてスタンプされています。尚、ヘルメットに付属の印刷物（シールドラベルや取扱説明書など）に表示される数列等は印刷物の管理コードであり、ヘルメットの製造年月日とは関係ありません。

※製造年月日「120718」の場合は、2012年7月18日となります。

▼窓ゴムや縁巻き（縁ゴム）に生じる粉吹き現象について

窓ゴムや縁ゴムに生じる白い粉状のものはブルーム（ブルーミング現象）で、空気中に含まれる酸素やオゾン・紫外線などにより、ゴムに添加された配合剤が表面に浮き出して白い粉状に結晶化したものです。この結晶化したブルームは、水やぬるま湯を含ませた柔らかい布で簡単に拭き取ることができます。機能上問題ございませんので、ヘルメットを安心してお使いください。

▼偏光レンズを使用したサングラス・保護メガネ等のご使用について

シールドは、ポリカーボネイト樹脂を原料とする「金型射出成形」と「平板の熱曲げ」の二種類の製造方法があります。しかし、いずれの方法においても成形時に少なからず残留応力が発生します。その残留応力によるシールドの分子量の変化が偏光レンズによって虹色の模様となり、シールド越しの風景が見え辛くなります。この事をご理解いただき、偏光レンズの使用はお控えください。

▼ベンチレーションダクトについて

●ベンチレーションダクトは両面テープやネジでヘルメットに固定されています。無理に外そうとすると、ヘルメット本体やベンチレーションダクトが破損するおそれがあります。

●トップケース等ケース類にヘルメットを収納する際は、ケース内部（特に天井部）とヘルメットとの間に隙間があるかどうか確認を行ってください。この隙間が十分確保されていない場合、ケースの蓋をつよく閉じた際、ヘルメットに打撃が加わりベンチレーションダクトを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットを取り出すきっかけとしてダクトの開口部などに指をかけないでください。

●暑い日に、ケース類にヘルメットを長時間収納すると、内部温度の上昇によってベンチレーションダクトを固定する両面テープの接着力が低下して、ズレや剥がれが生じるおそれがあります。また、ヘルメットの収納部がマフラーに近い場合も内部温度の上昇によって同様のトラブルが生じるおそれがあります。

▼つや消し塗装のヘルメットについて

●つや消し塗装のヘルメットのお手入れに、アルコール・ガソリン・ベンジン・灯油・シンナー系の溶剤等は絶対に使用しないでください。付着した汚れは水やぬるま湯を少量含ませた軟らかい布で拭き取ってください。この時に表面を強くこすると部分的なつやが生じてしまいますのでご注意ください。もし汚れが落ちない場合は、中性タイプの台所用洗剤を水で薄めて使用してください。

●つや消し塗装面を消しゴムで強くこすると、塗装面に部分的なつやが生じますので使用しないでください。また、コンパウンド（研磨剤）や、コンパウンドを含むワックス等でヘルメット表面を磨くと、塗装面に部分的なつやが生じますので使用しないでください。

●つや消し塗装の性質上、各種塗料・インク・ボールペン・油性 / 水性マーカーなどが付着した場合、きれいに落とす事ができません。付着させないように十分注意してください。

シールドカラーの選び方

晴天

晴れの日は、陽射しや路面の照返しの眩しさを軽減するスモークシールドがお勧めです。

※スモークシールドは、周辺が明るい状況時に限りご使用ください。

曇り・雨

曇りや雨天の走行には、クリアーシールドがお勧めです。

※アルコール成分を含む撥水剤（自動車窓用）はシールド素材を侵し、破損させるおそれがありますので絶対に塗らないでください。

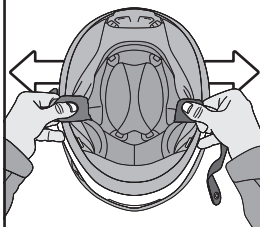
夕方・夜

夕方や夜にはクリアーシールドをお勧めします。ツーリングなどで走行が夜間にも及ぶ場合は、日没前に安全な場所で停車して、昼用シールドからクリアーシールドに交換してください。

全天候

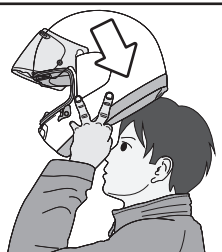
朝➡昼➡夜、晴れ➡曇り➡雨と、走行条件が日々刻々と変化する通勤通学、配達業のライダーにはライトスモークシールド・セミスモークシールドがお勧めです。

ＦＣＳを採用したヘルメットのかぶり方



あご紐をしっかり持って、ヘルメットの左右を広げます。

※ＦＣＳは頬パッドが下まで回りこんでいるため、間口が狭くなっています。また、事前にシールドを開けておくと、被り終えた際のヘルメットの位置調整が容易になります。



ヘルメットの間口を広げた状態を保ちながら頭上に持ち上げて、頭を滑らせるようにして被ります。

天井パッドが頭に触れるまであご紐を下に引っぱり、ヘルメットの位置を調整します。
最後に、あご紐を締めればヘルメットの装着完了です。

ヘルメットのお手入れ

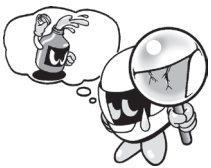
パーツ類のお手入れ（中性タイプの台所用洗剤を推奨）

ホルダーやベンチレーションダクトなどのパーツ類は、中性洗剤を適量の水で薄め柔らかい布にふくませてパーツ表面の汚れを拭き取ってください。

注意 お手入れにアルコールを含むクリーナー類やシンナー系の溶剤、ガソリンなどを使用すると、塗装面や素材が侵されますので絶対に使用しないでください。

シールドのお手入れ（中性タイプの台所用洗剤を推奨）

シールド表面にオイルやワックス・ガソリンなどが付着すると、たとえ目に見える変化がなくとも素材が侵されてしまいますので、シールドの定期的なクリーニングをお勧めします。クリーニングは薄めた中性洗剤でシールド表面の油分などを洗い流し、流水で十分に濯いでから柔らかい布で水分を拭き取ります。



注意 シールド素材は耐衝撃性に優れたものですが、アルコールを含むクリーナーやシンナー系溶剤、ガソリンなどが付着した場合や、車窓用の撥水剤などを使用した場合、素材が侵されシールドにヒビ割れが発生し、万一の衝撃時に破損するおそれがあります。

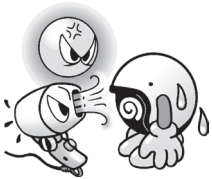
シールドに虫などが付着して硬くなってしまっている場合は、シールドを真水に浸けて柔らかくしてから、薄めた中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で拭き取ってください。尚、中性洗剤を薄めた液中にシールドを長時間浸け込むのは絶対にお止めください。

ヘルメット本体の洗い方（中性タイプの洗濯用洗剤を推奨）

ヘルメットを丸洗いする際は、ヘルメットからシールドや着脱式内装を取り外してヘルメット全体を中性洗剤を少量溶かした水に浸し、ヘルメット表面、あご紐、内装のメッシュを洗い、その後真水で十分に濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、日陰の風通しの良い場所にヘルメットを逆さまに吊して自然乾燥させてください。

危険

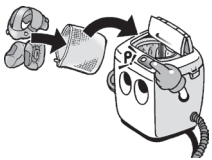
ヘルメットを乾燥させる際、５０℃以上加熱したり、長時間日光にさらし続けるたりすると、ヘルメット内の衝撃吸収ライナーが熱や太陽光に含まれる紫外線により変形、変質し、衝撃吸収性が失われてしまいますのでご注意ください。



着脱式内装のお手入れ（中性タイプの洗濯用洗剤を推奨）

フルシステム内装（システム内装・システムパッドのカバー・ストラップカバー・システムネック）をヘルメットから取り外して手洗いを行いますが、システム内装やシステムネックは枠を折り曲げたり変形させないよう、やさしく洗ってください。そして、洗い終えたら水でよく濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。

内装を洗濯機で洗う際は、必ず【洗濯ネット】に入れ、ソフト・弱・手洗いなどの素材に負担をかけないモード選択を行なってください。また、衣類乾燥機や洗濯乾燥機による内装の乾燥につきましては、その乾燥温度が５０℃以上に達する場合はご使用頂けませんのでご注意ください。



※乾燥温度については、衣類乾燥機や洗濯乾燥機に付属している取扱説明書をご確認ください。

ｐＨコントロール：抗菌消臭高機能生地について

ｐＨコントロール：抗菌消臭高機能生地を使用した内装は、路上に直接ヘルメットを置いたり、内装生地よりも硬い物で強く擦ったりすると、ほつれや毛羽立ちが生じる場合がありますのでご注意ください。尚、内装にほつれや毛羽立ちが生じた際は、新しい内装をお買い求めください。

RX-7X FIM Racing #2 の特長

FIM Racing Homologation Program が開始されたことにより、FIM 世界選手権サーキットレース及びそれに準ずる競技において FIM 承認を受けたヘルメットが義務化されました。そこで生まれた生粋のレーシングモデルが、「RX-7X FIM Racing #2」です。

FIM RACING
HOMOLOGATED
HELMET

Peripherally Belted - SNC^2

PB - SNCの成形用樹脂を大幅に見なおしたPB - SNC^2。その前頭部は、窓カットと並列に配されたスーパーファイバーベルトによって強化され、サイドからリヤにかけてスーパーファイバークロスで補強を行い、帽体全体での剛性を高めています。

マウスシャッター

フリーフローシステムモードとデフロストモードの二つの空気の流路を併せ持つマウスシャッターを採用しています。

ブローベンチレーション

ブローベンチレーションダクトから取り入れられた外気は、ヘルメット内部へと導きます。

ＩＣダクト３

ヘルメット中央に配置されたＩＣダクト３は、外気をヘルメット内部へと導きます。

ディフューザー・タイプ１２

レースからのフィードバックによる、全長が長くなったディフューザー・タイプ１２を採用。そして、スイッチの大型化によって操作性も向上しました。

可動式エアロフラップ

高速走行時のヘルメット下部を流れる空気を整えて、ヘルメットを安定させます。

ＶＡＳ－Ｖ３ロック

フォーミュラカー用ヘルメット【ＧＰ- ６】で採用された、レバーによる強固なシールドロックシステムをベースとしたＶＡＳ－Ｖ３ロックは、衝撃によるシールドの不意の開放を可能な限り防ぎます。

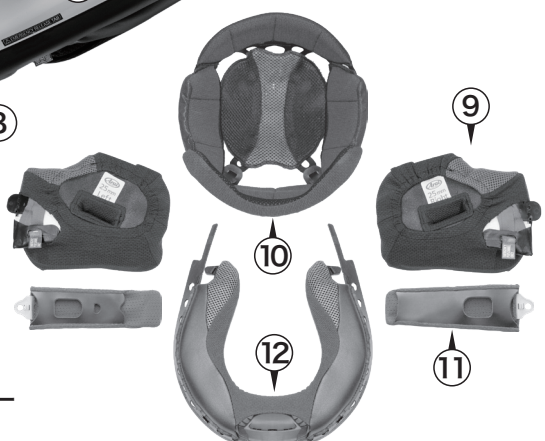
ＥＰフルシステム内装

海外市場で高い評価を受けているアライの固定内装の優れたかぶり心地を着脱式内装でも再現すべく開発されたフルシステム内装は、長時間の走行でも違和感のない心地良いフィッティングを実現しました。

ＦＣＳ構造システムパッド

ＦＣＳを取り入れたシステムパッドは、ウレタンパッドを支える【バックプレート】の持つスプリング効果によってアゴ下まで包み込むことで深いかぶり心地を与えます。また、このプレートの変形作用によってヘルメットの着脱もスムーズに行うことができます。

①ＩＣダクト３
②ディフューザー・タイプ１２
③ＲＸ−７Ｘレーシング・スポイラー
④サイドダクト
⑤ＶＡＳ−Ｖ３ロック
⑥マウスシャッター
⑦ブローベンチレーション
⑧エアロフラップ



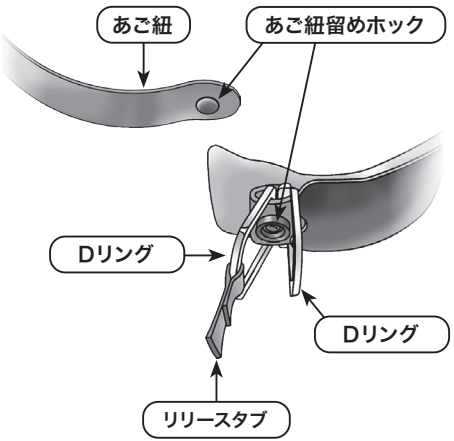
⑨システムパッド
⑩システム内装
⑪ストラップカバー
⑫システムネック

	目　次	ページ
A	あご紐の締め方	14 ～ 15
B	ＶＡＳ−Ｖ３ロックについて	16
C	シールドの開閉	17
D	ブローシャッターの操作	18
E	マウスシャッターの操作	18
F	ＩＣダクト３の操作	19
G	ＤＦＩインテークの操作	19
H	エアロフラップの操作	20
I	シールドの着脱	22 ～ 25
J	シールドベースの着脱	26 ～ 27
K	ストリングの着脱	28
L	ディフレクターの着脱	29
M	システムパッドの着脱	30 ～ 31
N	エマージェンシータブについて	32 ～ 33
O	パッドカバーの着脱	34 ～ 35
P	ヘルメットのサイズ調節	37
Q	システム内装の着脱	38 ～ 39
R	システムネックの着脱	40 ～ 41
S	ストラップカバーの着脱	42 ～ 43
T	オプションパーツリスト	44 ～ 45
U	ヘルメットの廃棄方法について	45

A あご紐の締め方

あご紐を適切に締めていない場合、ヘルメットが、万一の際に安全装備としての機能を十分に発揮できません。当ページを良くお読みになり、あご紐を正しくご理解いただきますよう、お願いいたします。

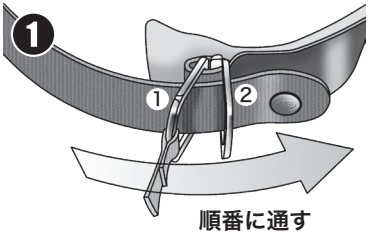
あご紐の各部名称



❶二つのDリングに通す

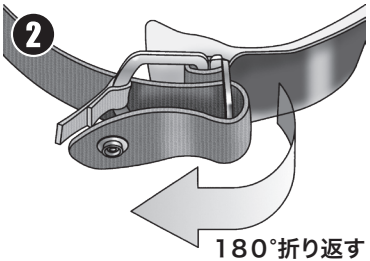
あご紐を、Dリング①→Dリング②の順に通します。

※あご紐を通す際には、途中でねじれさせないよう注意してください。



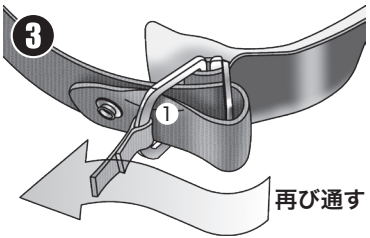
❷あご紐を180°折り返す

二つのDリングにあご紐を通したら、あご紐の先端を軽く引っぱってゆるみを取り除きながら180°折り返します。



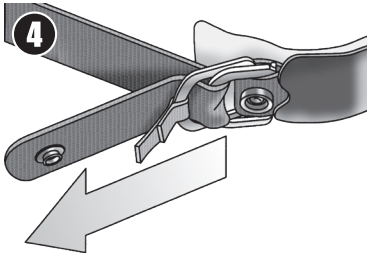
❸Dリング①に再び通す

折り返したあご紐の先端を、Dリング①に通します。



危険

あご紐を適切に締めていない場合、転倒時の衝撃でヘルメットが脱落し、死亡または重傷を負う危険性があります。

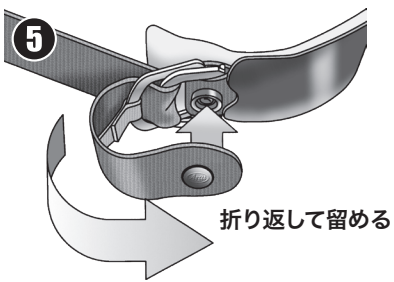


❹あご紐を引っぱる

あご紐の先端部を持って矢印の方向に引っぱると、あご紐が締まります。

あご紐の適切な締め具合について

あご下とあご紐の間に指を1、２本差し入れて襟元を直すように左右に動かしても、指の背が常にあごに触れる程度が適切な締め具合です。



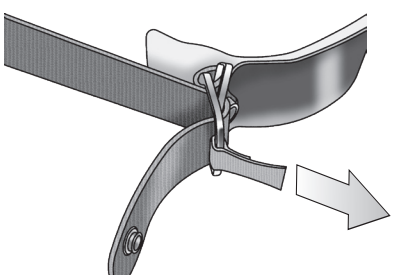
❺余った先端部を留める

余ったあご紐の先端を、あご紐留めホックで留めることで、あご紐の風によるバタ付きや、襟元の面ファスナーへの付着を防止できます。

あご紐が乗車服やレインウェアなどの襟元の面ファスナーに付着すると後方確認の際に首の動きを妨げるおそれがあります。また、あご紐が面ファスナーへ付着すると毛羽立ちの原因になります。

リリースタブの使い方

あご紐留めホックを外し、リリースタブを摘んで矢印の方向に引っぱると、あご紐を簡単に緩めることができます。



あご紐を【あご紐留めホック】で留めただけの状態であご紐を持たないでください。【あご紐留めホック】が外れてヘルメットが落下して破損してしまう場合があります。

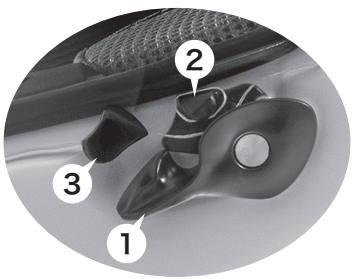
ＦＩＭ公認ラベルについて(FIM Homologation Label)

ＦＩＭ公認ヘルメットは、あご紐に縫い付けられた【ＦＩＭ公認ラベル】によって識別されます。
QR コードを読み取ると、FIM 公認レースに出場するために必要とされるヘルメットについての情報をご覧いただけます。

※画像はモザイク処理を施しています。

B VAS−V３ロックについて

VAS−Vシールドは、四輪用ヘルメットのＧＰ−６で採用されたレバーによる強固なシールドロックシステムをベースとしたVAS−Vロックの改良版である、VAS−V３ロックシステムによってシールドがロックされ、外圧や衝撃による不意のシールド開放を可能な限り防ぎます。



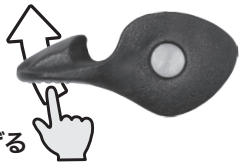
VAS−V３ロック各部名称

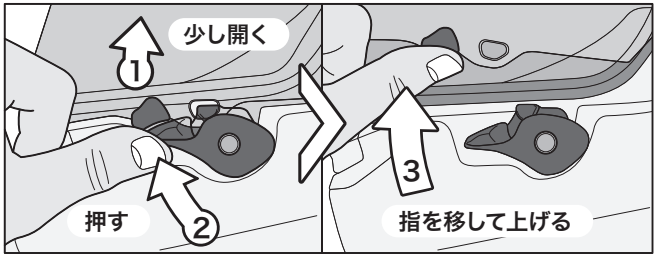
①ロックレバー
②ロックベース
③シールド指かけ

C シールドの開閉

シールドの開き方（シールドロックの解除）

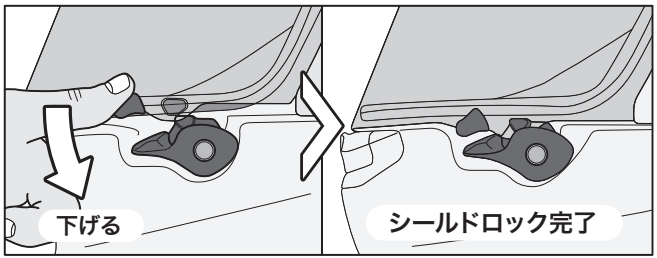
VAS－V３ロックレバーの前方下側を親指の腹で押し上げるとシールドロックが解除され、シールドは少し開きます。次に、シールドの指かけの下に指を移し、シールドを上げます。





シールドの閉じ方（シールドロックの方法）

シールドを閉じる際は、シールドの指かけの上に指をかけてシールドを下げ、確実にロックさせてください。

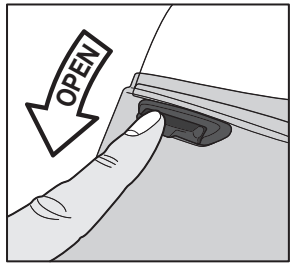


シールドのロックが不完全な状態で走行すると、風などの外圧によってシールドが不意に開いてしまい危険です。

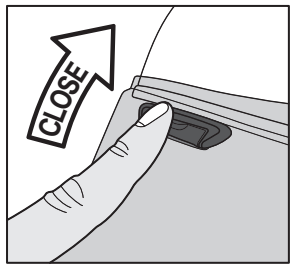
VAS－V３ロックレバーは絶対に下向きに押さないでください。シールドのロック機構が損なわれるおそれがあります。

D ブローシャッターの操作

ブローシャッター中央の膨らみに指をかけ、引き下げるとシャッターが開き、外気がヘルメット内に流入します。

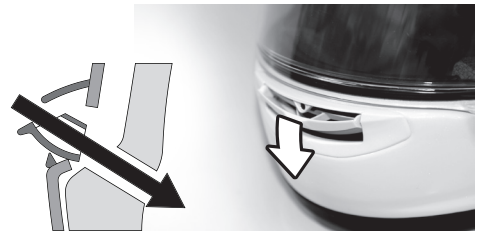


ブローシャッター中央の膨らみを押し上げるとシャッターが閉じ、外気の流入は止まります。

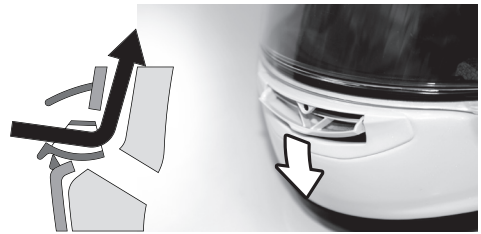


E マウスシャッターの操作

シャッター上部中央に指をかけ、1段引き下げると【半開】となり、流れ込む外気は口元へと向かいます。

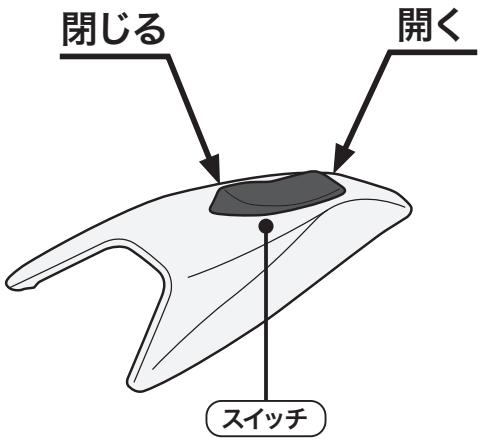


シャッターをもう1段引き下げると【全開】となり、流れ込む外気はシールド内面に導かれてシールドの曇りを軽減します。



F ICダクト3の操作

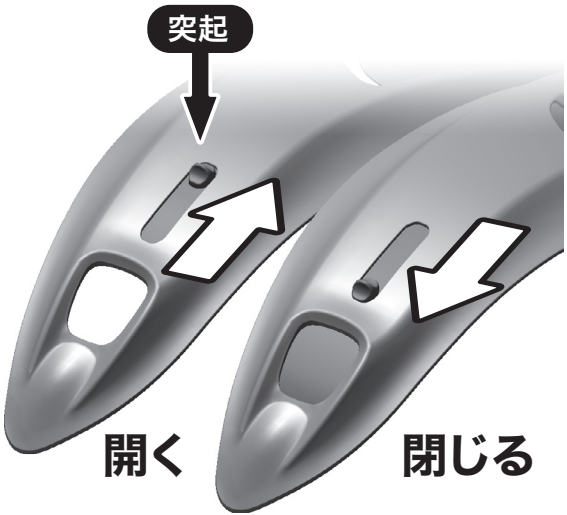
ダクト背面のスイッチの後方（ヘルメットの前後に準じます）を押すとシャッターが開き、外気がヘルメット内に流入します。
スイッチの前方を押すとシャッターが閉じ、外気の流入は止まります。



雨天時は、吸気側にあたるダクト類のシャッターを全て閉じてヘルメットをご使用ください。尚、シャッターを閉じても水や空気を完全には遮断できませんので、予めご了承ください。

G DFIインテークの操作

ディフューザーシステム・タイプ12の、前方吸気口がDFIインテークです。
インテーク部のスライドスイッチの突起を後方に（ヘルメットの前後に準じます）スライドさせるとシャッターが開きます。突起を前方にスライドさせるとシャッターが閉じます。



H エアロフラップの操作

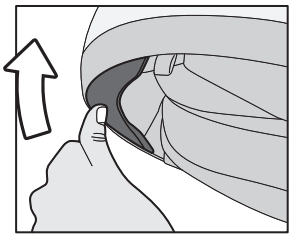
エアロフラップの展開

エアロフラップの下部中央を摘み、矢印の方向に引き出します。

※右図は、エアロフラップを最大限引き出した状態です。

エアロフラップの格納

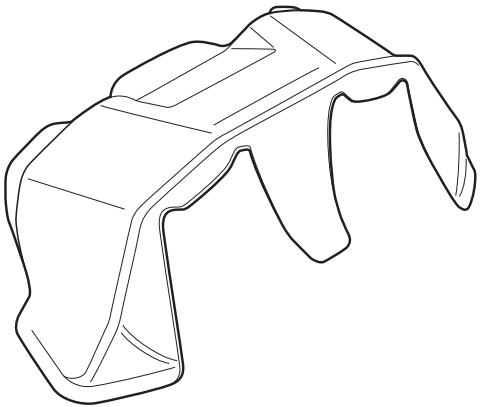
エアロフラップを矢印の方向に押し上げます。



エアロフラップを止まる位置以上に無理に引き出すと、エアロフラップが脱落するおそれがあります。
ヘルメットの着脱時や持ち運ぶ際には、エアロフラップを格納してください。

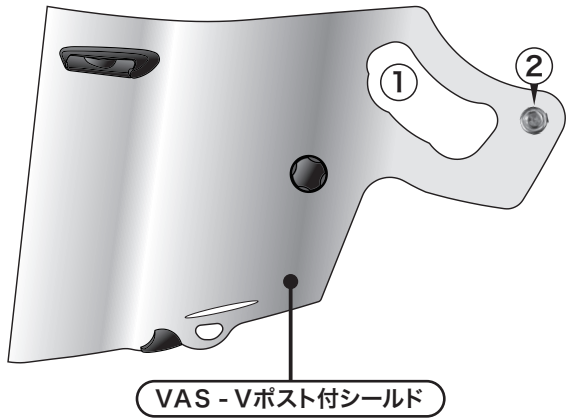
RX−7Xレーシング・スポイラーに関するご注意

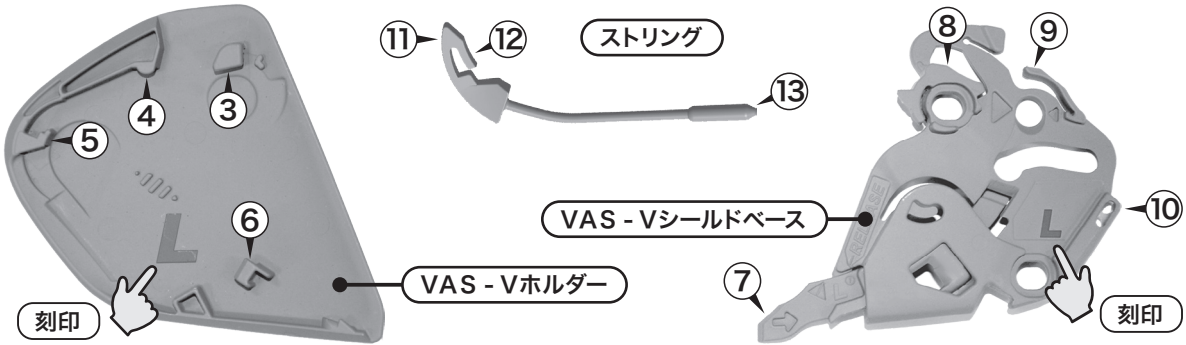
RX−7Xレーシング・スポイラーには塗装を行わないでください。塗装を行うと素材が脆弱になり、加わった外圧によって破損する場合があります。
また、オートバイのヘルメット収納スペースには収納できなくなる場合があります。予めご了承ください。



VAS−V構成パーツの各部名称

VAS−Vシールド	1	摺動穴（物が滑って動く穴）
	2	シールドピン
VAS−Vホルダー（L・左側）	3	上部フック（前）
	4	上部フック（後）
	5	ストリング用マウント
	6	下部フック
VAS−V シールドベース（L・左側）	7	VAS−Vリリースレバー
	8	上部フック受け（前）
	9	上部フック受け（後）
	10	ストリング用マウント
ストリング	11	フック
	12	返し
	13	アンカー

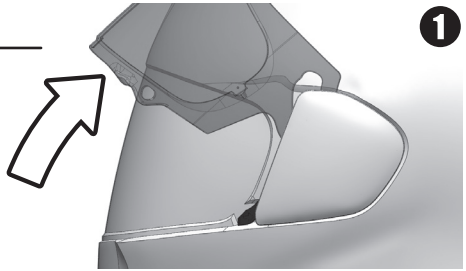




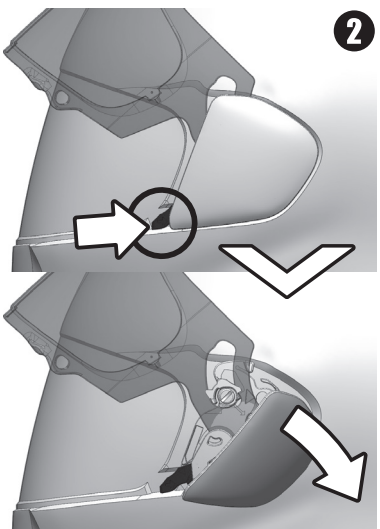
Ⅰ シールドの着脱

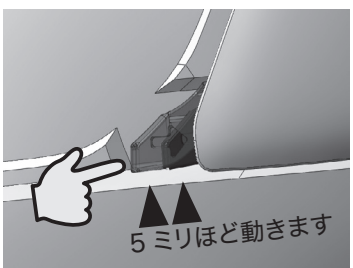
シールドの外し方

❶シールドを開いて全開にします。※図ではロックレバーが省略されています。



❷ホルダーの前方に見える【VAS−Vリリースレバー】を、刻印された矢印の方向に押し込みます。すると、ホルダーのロックが解除されてホルダーが外れます。



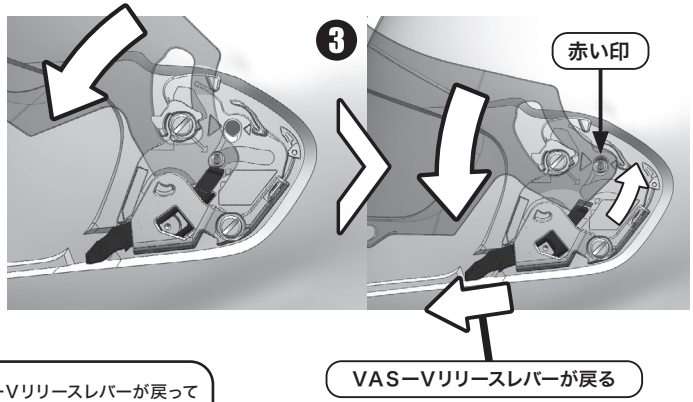


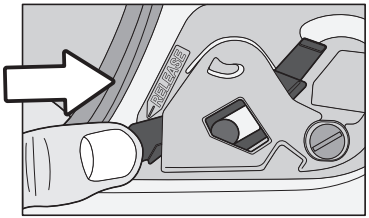
リリースレバーは、止まる位置までしっかり押し込んでください。

ホルダーとシールドベースは、落下防止用のストリングで繋がっています。

❸VAS−Vリリースレバーが押し込まれた状態でシールドを下げると、シールドは通常の開閉とは異なる動きをします。シールドピンがシールドベースに設けられたガイドレール（〜の形をした溝）から離脱して、シールドベースから覗く赤い印の位置に移動します。その際、VAS−Vリリースレバーは元の位置に戻ります。

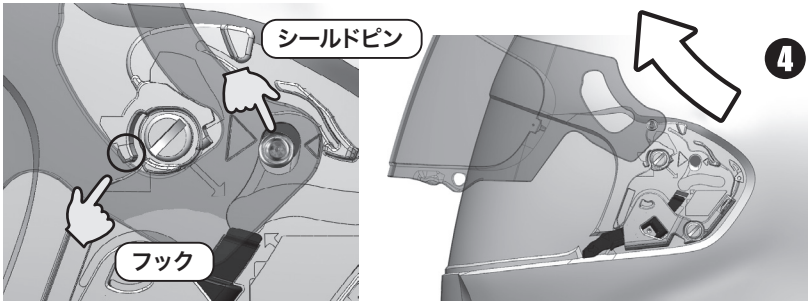
※ストリングで繋がったホルダーは省略しています。





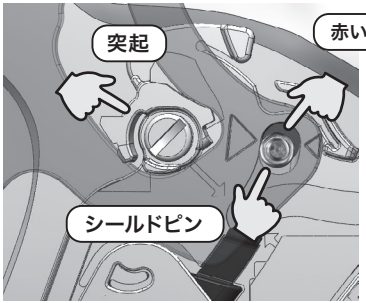
VAS−Vリリースレバーが戻っていない場合は、先端部を指で押さえて引き出してください。

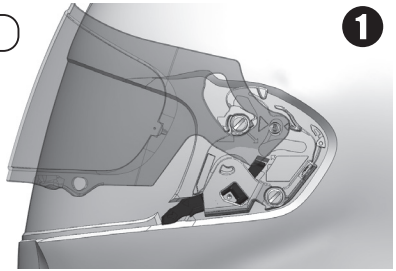
❹この時シールドは、シールドベース側に一箇所のフックで留められているだけなので、シールドを後方からめくることでシールドベースから簡単に取り外すことができます。
反対側も同様の手順で取り外しを行いますが、既に取り外しを行った側のシールドピンがヘルメットに接触しないように注意してください。



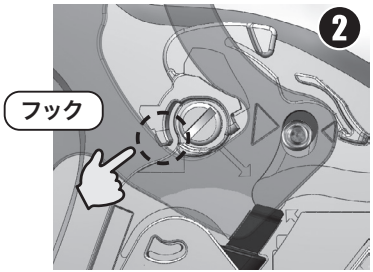
シールドの付け方

❶シールドベースに設けられた突起（可変軸受け）にシールドの摺動穴の下側を合わせます。そして、シールドピンをシールドベースから覗く赤い印に重ね合わせます。



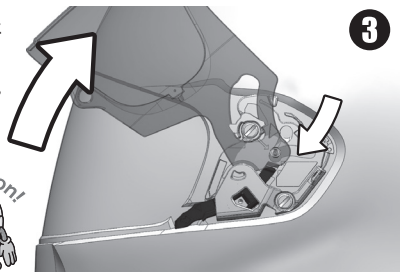


❷フック部分のシールドを上から押して、フックの下に入り込ませます。



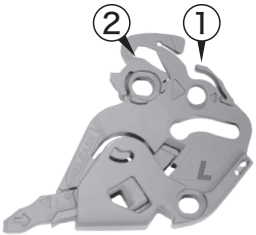
❸シールドを上げると、シールドピンがシールドベースに設けられたガイドレール（〜の形をした溝）に入り込みます。

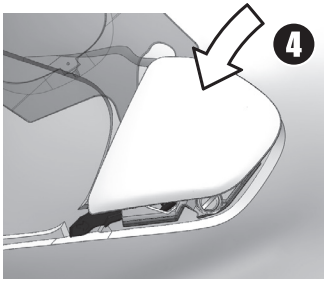
※ストリングで繋がったホルダーは省略しています。



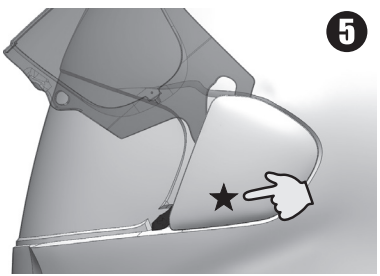
ベースの指で示した部分がシールドの上にかぶさっている事を確認して、シールドを上げます。

❹ホルダーの上部二カ所のフックを、シールドベースの上部の窪みに引っかけます。

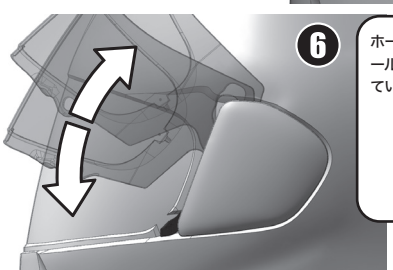




❺ホルダーの外周とヘルメットの段差の形を合わせ、★印付近を押してホルダーをロックさせます。この部分の裏側には下部フックが設けられています。



❻反対側も同様の手順で取り付けを行ってください。最後にシールドを数回上下させ、正しく取り付けられているかどうか確認を行います。

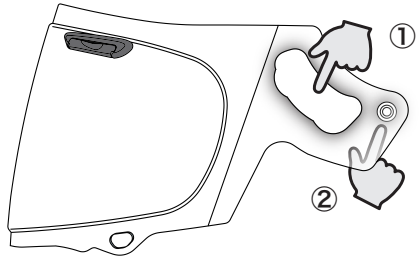


シールドやホルダーの取り付けが不完全な場合、走行中に外れるおそれがあります。必ず動作確認を行なってから、ヘルメットをご使用ください。

ホームページにて、VAS−Vシールドの着脱方法を動画配信しています。

シールドの動きが渋くスムーズでない場合は

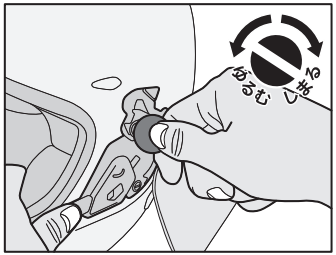
一旦シールドを取り外し、市販の綿棒に潤滑シリコンを少量含ませてシールドの摺動穴周辺①と内側に突き出たシールドピンの軸周り②に塗布します。その後、シールドをヘルメットに取り付けて数回上下に動かして潤滑シリコンを十分に馴染ませてください。



潤滑シリコン

新品のシールドを取り付ける際にも、潤滑シリコンを塗布してください。

J シールドベースの着脱



シールドベースの外し方

シールドベースの二本のネジを、10円硬貨などで左に回して取り外します。

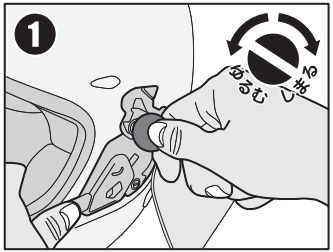
シールドベースの付け方

シールドベースの左右を刻印で確認し、ネジは初めに手で右に回し、確実にネジ穴に入っていることを確認してから10円硬貨などで軽く回し、止まった位置から四分の一回転未満が締める目安です。ネジの締め忘れや締めすぎには十分注意してください。

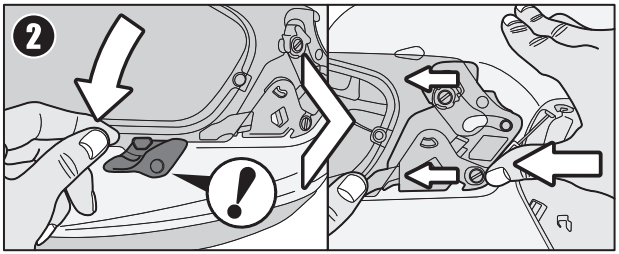
シールドベースの着脱や交換を行ったり、標準装備のシールドとは異なる種類のシールドに付け替える際は、ヘルメットへのシールドのアタリ（密着具合）がきつく、または緩くなってしまう場合があります。その際は次のページの、「シールドベース調整によるフィッティングの最適化」をご参照ください。

シールドベース調整によるフィッティングの最適化

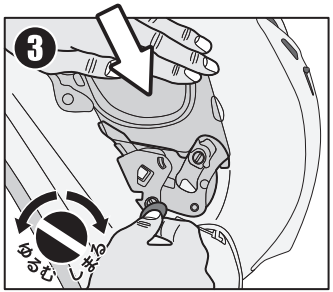
❶VAS−Vリリースレバーを操作して左右のホルダーを外します。動かしたVAS−Vリリースレバーをリセット（元の位置に戻す）させるため、シールドを一旦シールドベースから外してから再度取り付けます。その後、シールドベースが自由に動かせる程度に10円玉などの硬貨を使って四本のネジを少しだけ緩めます。



❷シールド側の指かけに指をかけ、カチッと止まる位置（ロック完了位置）まで確実にシールドを引き下げてください。次に、シールドベースがシールドに接するように位置を整えます。止まる位置までシールドベースを前方に押してください。



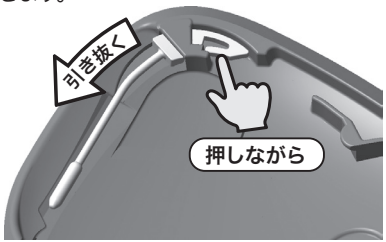
❸シールドを手のひらでシールドベース側に押し、シールドの内面が窓ゴムに密着するようにしてネジを締めます。この作業を左右に行ってからシールドを開き、左右のホルダーを取り付けます。



K ストリングの着脱

ホルダー側のフックの外し方

ストリングのフックの返しを爪の先で押しながら引き抜きます。

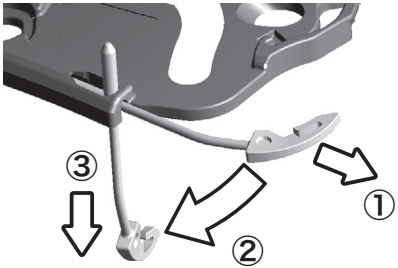


ホルダー側のフックの付け方

ストリングのフックを、ホルダーのマウントに奥までさし込みます。

シールドベース側のアンカーの外し方

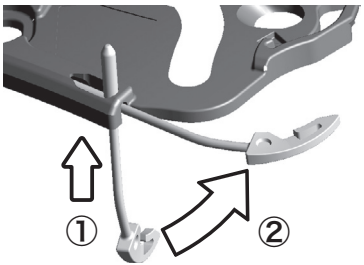
ヘルメットから取り外したシールドベースからストリングを全て引き出します。そして、シールドベースの下側に向け９０度折るように曲げるとシールドベースから外れます。



シールドベースを外さないと、ストリングのアンカーは外せません。

シールドベース側のアンカーの付け方

シールドベース後方の丸穴にストリングのアンカーを裏からさし込んで、シールドベースに設けられた溝に収まるように９０度持ち上げます。

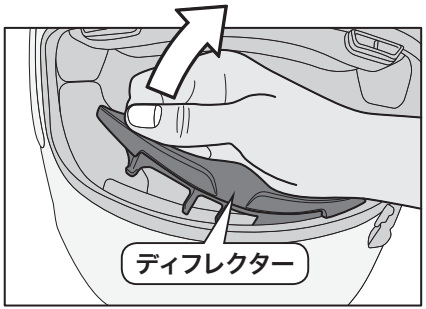


ストリングを付けないでヘルメットを使用すると、シールドの着脱の際に、ホルダーを床や地面に落とすおそれがあります。

L ディフレクターの着脱

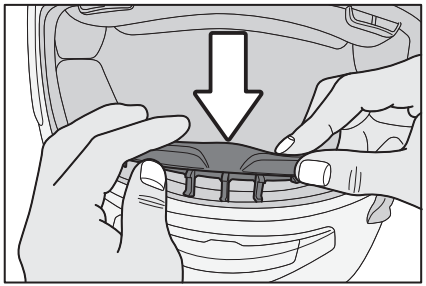
ディフレクターの外し方

ヘルメットの窓ゴムとセンターパッドとの隙間に差し込まれているディフレクターの端をしっかりと掴んで引き上げると、ディフレクターを外すことができます。



ディフレクターの付け方

ディフレクターの中心とヘルメットの中心を合わせ、窓ゴムとセンターパッドとの隙間にディフレクターのフックを奥までしっかりと差し込んでください。

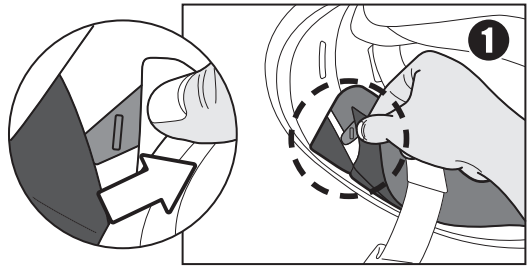


呼気のブロック効果があるディフレクターは、その有無を自由に選択できます。

M システムパッドの着脱

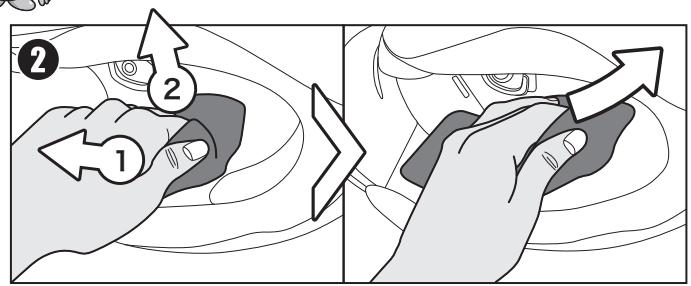
システムパッドの外し方

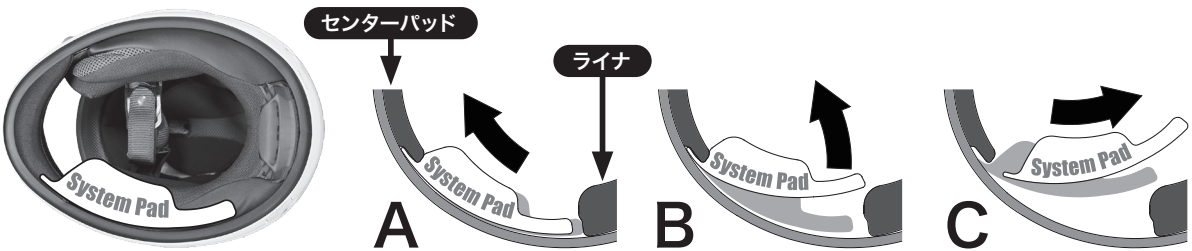
❶先ず、システムパッド前方のポケットに差し込まれている【タブ】の根元を摘んで、差し込まれているタブを矢印の方向に引き抜きます。



当ヘルメットのシステムパッドは、必ず後方を持ち上げて外してください。前方を無理に持ち上げると破損してしまうおそれがあります。

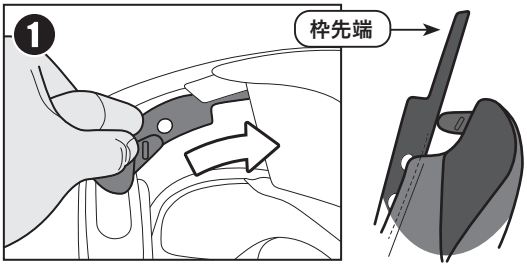
❷システムパッドを掴み、センターパッド側に押し付けてライナーの凹部への引っかかりを解除します。(下図Aを参照) そして、システムパッドの後方を持ち上げます。(下図Bを参照)
システムパッドの後方が外れたら、斜め後方に抜き取ります。(下図Cを参照)





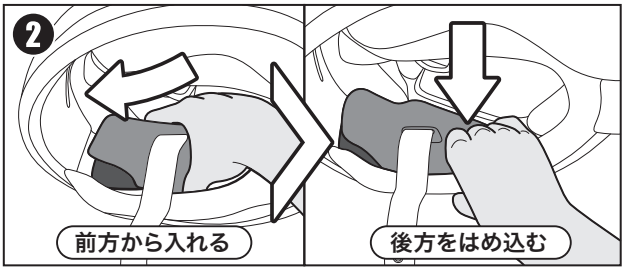
システムパッドの付け方

システムパッド裏の表示ラベルで左右を確認し、取り付けを行う側のシステムパッドの中央の穴に予めあご紐を通しておきます。

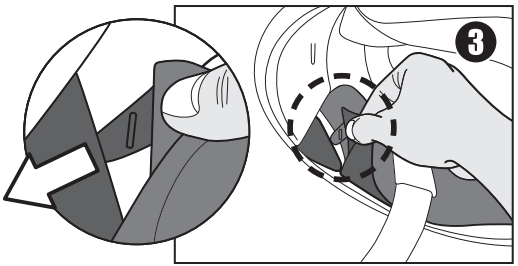


❶ネックパッドの枠先端が外れて飛び出している場合は、帽体とセンターパッドの隙間に差し込みます。枠先端が正しく差し込まれていないと、ヘルメット内に突出して顔を傷付けるおそれがあります。

❷システムパッド前方のツメから先にヘルメットにはめ込みます。センターパッドの隙間にシステムパッド前方のツメを奥まで差し込み、システムパッドの後方をヘルメット側へ押し付けてはめ込みます。



❸あご紐を引っぱって弛みを取り除きます。そして、システムネックの【タブ】をシステムパッド前方のポケットに奥まで差し込みます。



危険

タブの取り付けが不充分だと、走行中にタブが外れてしまうおそれがあります。システムパッド中央の穴にあご紐を通さないでシステムパッドを取り付けると、あご紐の機能が損なわれて危険です。また、システムパッドを付けずにヘルメットを着用するのも大変危険です。

N エマージェンシータブについて

EMERGENCY PERSONNEL ONLY

エマージェンシータブとは、ライダーが何らかの衝撃で負傷し、救護者がライダーのヘルメットを脱帽させる際に、システムパッドを引き抜くことで、スムーズに脱帽を行えることを目的としたシステムです。
救護者は、ポイントステッカーや、システムパッドのポイントラベルで傷病者の着用するヘルメットがエマージェンシータブに対応している事を認識できます。※ポイントステッカーをヘルメットから剥がさないでください。

エマージェンシータブを引き抜く前に行うこと

救護者はライダーの頭部及び頚椎保護のため、ヘルメットをしっかりと保持してあご紐を予め外しておきます。尚、あご紐を外せない場合は切断します。

❶ポイントラベルを確認

傷病者のヘルメットを観察し、ヘルメットに設けられたエマージェンシータブの目印（ポイントラベル）を確認します。

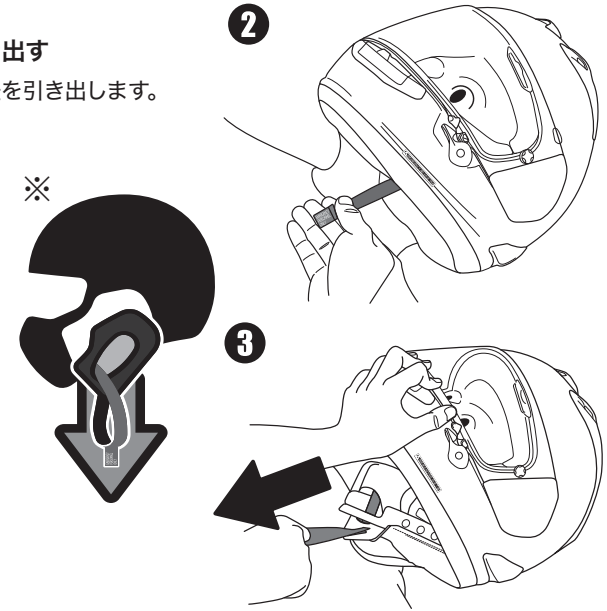
❷エマージェンシータブのポイントラベルを摘んで引き出す

ポイントラベルを指で摘んで、格納されているループ状の紐を引き出します。

❸ラベルに指をかけ、システムパッドを引き抜く

負傷者の頭部が動かないようにヘルメットをしっかりと支え、ループ状になった部分に指をかけます。
ヘルメットに対して垂直に力をかけ、システムパッドのツメ部分まで外れたら、少し後ろに引き抜くようにして、システムパッド本体を脱着します。(※図を参照)
少し後ろに引き、頬パッド本体を引き出します。

※ネックパッドと頬パッドの一部が接合されている場合がありますが、脱着する過程で分離します。



危険

走行中や、普段のメンテナンスなどの目的で使用しないで下さい。
尚、事故状況やライダーの状態によっては、エマージェンシータブが頬パッドの取り外しを確実に行なう有効な手段とならない場合があります。

O パッドカバーの着脱

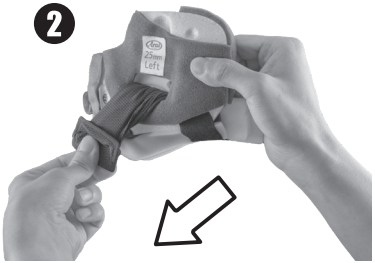
パッドカバーの取り外し

❶システムパッド後部から先にパッドカバーを外します。そして、パッドカバー全体をパッド本体から外します。

❶

❷パッド裏面のストッパー（あご紐の通る穴の、四角く固い部分）を持ってカバーを引き出します。カバーを引き出す際には、パッド本体（発泡スチロール製）を壊さないようにご注意ください。

❷

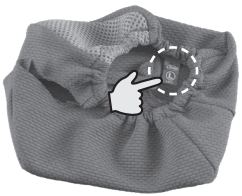


取り外したカバーは洗濯機で洗うことができます。（洗濯ネットを推奨）パッド本体は熱や変形に弱いデリケートな素材で構成されているので、やさしく手洗いしてください。

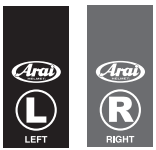
パッドカバーとパッド本体の左右の確認方法

パッドカバーとパッド本体には、左（Left）右（Right）が、縫い付けラベルや布製シールによって表示されています。

パッド本体表示

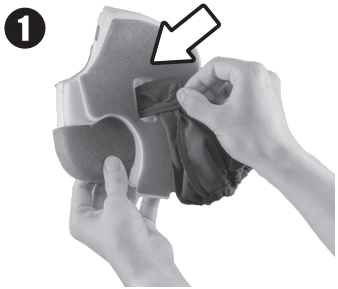


パッドカバー表示



パッドカバーの取り付け

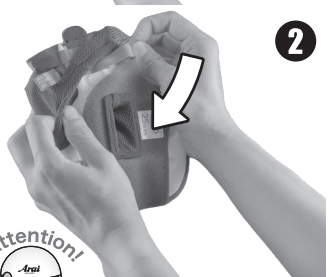
❶ラベルやシールによってパッド本体とカバーの左右が確認できたら、パッドの中央の穴にストッパーを縦向きに通し、横向きに直してパッド裏面の窪みに収めます。この時、パッド中心の穴がねじれて塞がれないようにご注意ください。



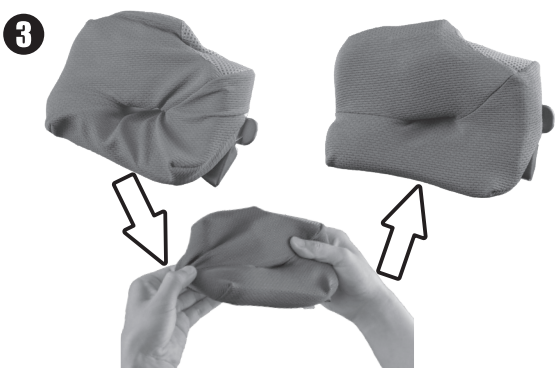
Attention!

必ず、同じ方向の表示ラベルをペアにしましょう。

❷パッドのツメがついている方を上向きにし、パッドカバーの穴が空いている箇所に、パッドのツメと、エマージェンシータブの箇所を潜らせ、カバーを被せていきます。



❸カバーをかぶせた直後は、ウレタンの角がカバーに押されて丸まっています。このままではかぶり心地に影響するので、システムパッドをほぐすようにして、ひっぱり、ウレタンの角を出します。



Attention!

エマージェンシータブがパッドカバーから飛び出している、またはパッドカバー内部に隠れてしまっている場合は、左の写真を参考に位置の調節を行ってください。

調節パッドによるサイズの調節

システムパッドには、容易に剥がして厚み変更ができる【調節パッド】が予め取り付けられています。この調節パッドを取り除くことでパッドの厚みを5mmほど薄くでき、フィット感を緩くすることができます。

調節パッドの取り除き方

システムパッドからカバーを外し、一番上に貼られている調節パッドを剥がします。このパッドは本体パッドにストライプ状に部分接着されているので容易に剥がすことができます。
調節パッドを剥がし終えたら、システムパッド本体にパッドカバーをかぶせてください。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺の物に誤ってくっ付けないようご注意ください。

調節パッドを剥がす際、本体側のパッドをちぎってしまわないようにご注意ください。尚、剥がしたパッドは再利用できません。お住まいの地域の、軟質ポリウレタンフォーム製品の分別ルールにしたがって廃棄してください。

インカムスピーカー取り付けについて

システムパッドからカバーを外し、耳の穴にあたる位置の丸いパッドを剥がすと、ヘルメットスピーカーを取り付けるスペースができます。

直径が5cm未満の、薄型タイプのヘルメットスピーカーをご使用ください。

P ヘルメットサイズの調節

標準装備の内装ではヘルメットがきつい方やゆるい方のため、厚さの異なる内装に替える事で頭周りと頬部のサイズ調節が行えますが、頭周りに関してはヘルメットのサイズによって調節範囲が「ゆるくなる」「きつくなる」のどちらかに限定されます。
システム内装とシステムパッドの厚さの異なるオプションが用意されていますが、交換される場合には標準設定をご参照のうえ、お買い求めください。

システム内装交換による頭周りの調節

システム内装は、右の表のような頭周りのサイズ調節が行えます。
お客様がお持ちのヘルメットの標準設定内装をご確認の上、正しいサイズのシステム内装をお買い求めください。

※ＸＬは、システム内装交換による頭周りの調節を行えません。

ヘルメットサイズ	システム内装表示		
ＸＳ	Ⅱ−7mm	Ⅱ−10mm	
Ｓ		Ⅱ−7mm	Ⅱ−10mm
Ｍ	Ⅲ−7mm	Ⅲ−10mm	
Ｌ		Ⅲ−7mm	Ⅲ−10mm
ＸＬ		Ⅳ−7mm	
フィット感	ゆるくなる	標準設定	きつくなる

システムパッド交換による頬部の調節

システムパッドは内部のウレタンパッドの厚みが異なる以外は全て共通で、右の表のようなサイズ調節が行えます。
お客様がお持ちのヘルメットの標準設定内装をご確認の上、正しいサイズのシステムパッドをお買い求めください。

ヘルメットサイズ	システムパッド表示		
ＸＳ	25 mm	30 mm	
Ｓ / Ｍ / ＸＬ	20 mm	25 mm	30 mm
Ｌ		20 mm	25 mm
フィット感	ゆるくなる	標準設定	きつくなる

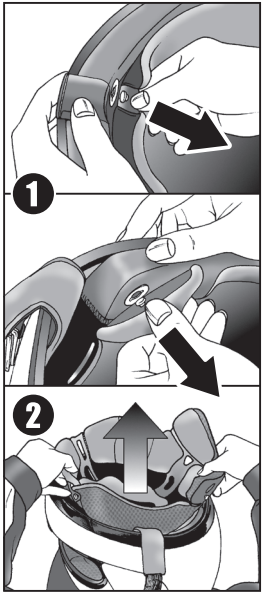
システムパッドの厚さを標準よりも極端に厚くしたり薄くしたりすると、ヘルメットのかぶり心地を大きく損なう場合があります。

Q システム内装の着脱

内装の外し方

❶システム内装は四つのホックで衝撃吸収ライナの内側に取り付けられています。
それぞれのホックのなるべく近くを持ち、ヘルメットの中心に向けて引っぱってホックを取り外してください。

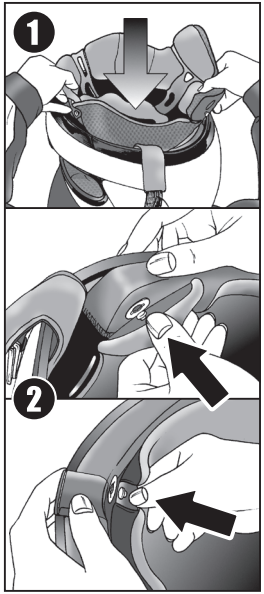
❷システム内装をヘルメットから取り出します。



内装の付け方

❶内装の前後の向きに注意してヘルメット内に入れます。

❷システム内装のそれぞれのホック位置を合わせて押し込みます。取り付け完了後に内装の歪みを整えてください。



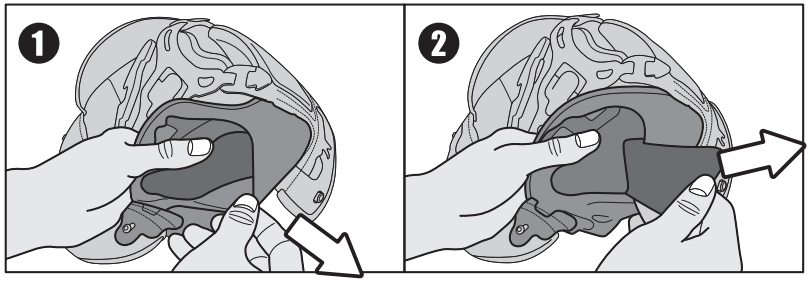
ホック及び内装枠の破損防止のため、全てのホックを外してから内装を取り出してください。また、乗車用手袋をヘルメット内に入れると、手首部分の面ファスナーが内装に貼り付いたり、手袋のプロテクターやエアーダクト類がヘルメットの内部を傷める場合がありますので注意してください。

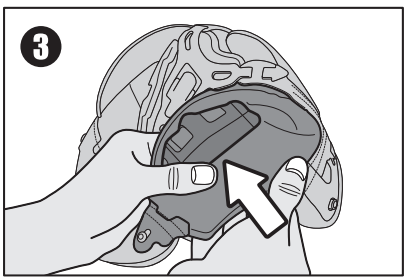
■システム内装のサイドパッド部分には、容易に剥がすことができる【調節パッド】が貼り付けられています。
この調節パッドを取り除くことで、システム内装のサイド部を片側で4mmほど薄くできます。

❶システム内装のサイドパッド（側頭部にあたる部分）の外側のポケットをめくります。

❷調節パッドは、パッドの本体側に粘着テープで部分止めされているので丁寧に剥がしてください。

❸調節パッドを取り除き、ポケットを閉じてシステム内装の形を整えます。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺の物に誤ってくっ付けないようご注意ください。





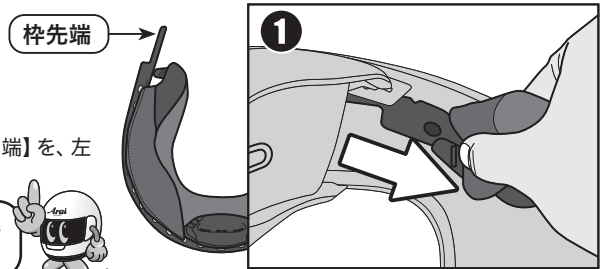
調節パッドを剥がす際に、本体側のパッドをちぎってしまわないようにご注意ください。尚、剥がしたパッドは再利用できません。お住まいの地域の、軟質ポリウレタンフォーム製品の分別ルールにしたがって廃棄してください。

R システムネックの着脱

システムネックの取り外し

■予め、左右のシステムパッドを外しておきます。

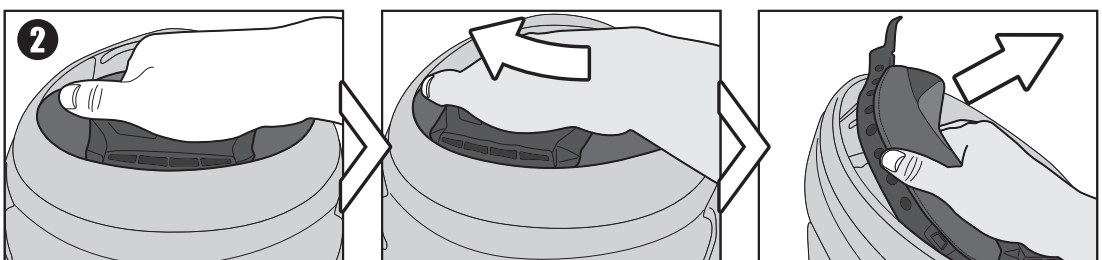
❶センターパッドの裏に差し込まれているシステムネックの【枠先端】を、左右とも抜き取ります。



枠先端がどのようにセンターパッドに差し込まれていたか、覚えておいてください。

One point!

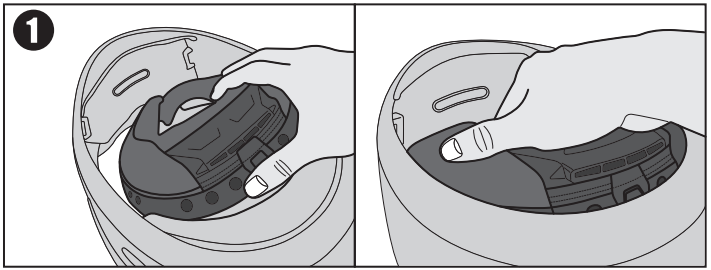
❷システムネックの中央をしっかり掴んで、エッジに沿って左または右に3～4ｃｍほどスライドさせると、取り付けフックが解除されてシステムネックを引き抜くことができます。



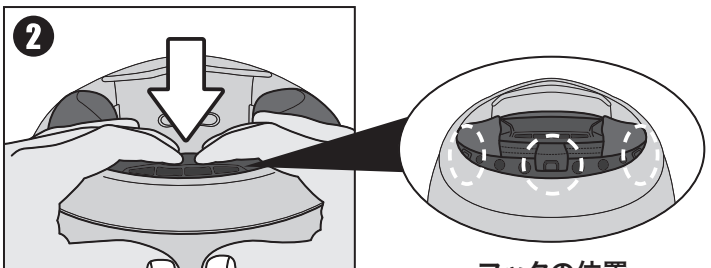
システムネックを外す際は、縫製のほつれ防止のためシステムネックを枠ごとしっかり持ってください。
また、ヘルメットを持ち歩く際にシステムネックを持つと、システムネックが外れてヘルメットが落下するおそれがあります。

システムネックの取り付け

❶システムネック両端をすぼめ、ヘルメット内に入れます。そして、ヘルメット側の隙間にシステムネックの枠を均等に差し込み、システムネックの左右のズレを修正しておきます。



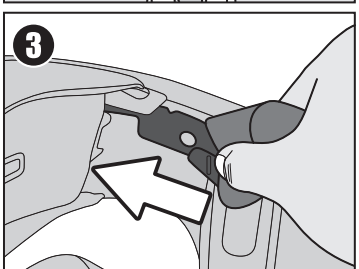
❷次にシステムネック後部のフックの取り付けを行います。先に左右のフックを上から押し込んで取り付け、中央は写真❷のように両手で摘むようにして取り付けます。



フックの位置

取り付け後にシステムネックを少し引っ張ってもフックが外れないことを確認してください。

❸システムネックの【枠先端】をセンターパッドの裏に差し込み、システムパッドを取り付ければ作業終了です。



枠先端が正しく差し込まれていないと、ヘルメット内に突出して顔を傷付けるおそれがあります。

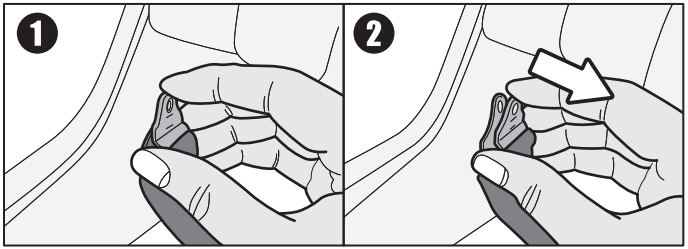
S ストラップカバーの着脱

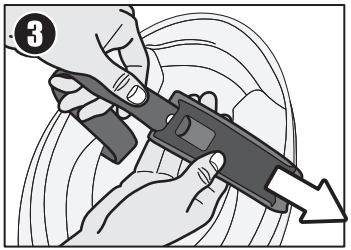
ストラップカバーの取り外し

❶あご紐基部の金属製アンカーにかぶさっている、ストラップカバーの取り付け具【カバーハンガー】をしっかり持ちます。

❷カバーハンガーを上の方からめくるようにして、金属製アンカーから取り外します。

❸ストラップカバー全体をあご紐から抜き取ります。反対側のストラップカバーも同様に外してください。

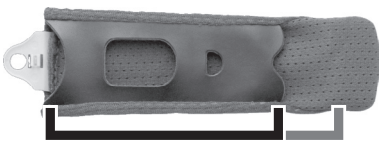




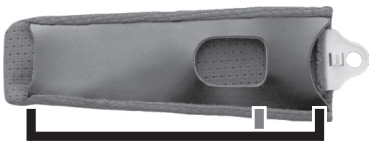
ストラップカバーの大きさは、ヘルメットサイズによって異なりますので、パーツリストをご参照ください。

ストラップカバーの取り付け準備

まず、ストラップカバーの左右表裏の確認を行います。ストラップカバーは合成皮革が縫い付けられている方を【裏】とします。



左側：合皮の部分が短い

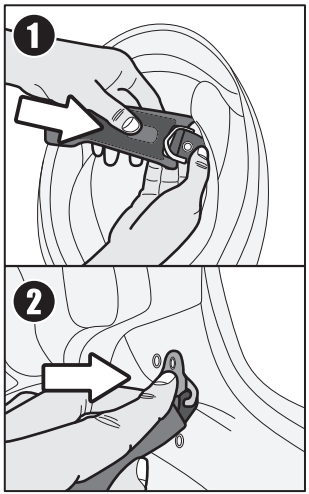


右側：合皮の部分が長い

左側ストラップカバーの取り付け

❶カバーの裏（合皮側）を手前に向け、Dリング側のあご紐をカバーに差し込みます。

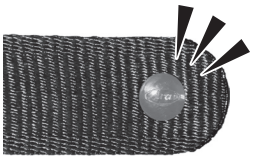
❷カバーハンガーを、あご紐の金属製アンカーに重ね合わせて押し付けます。

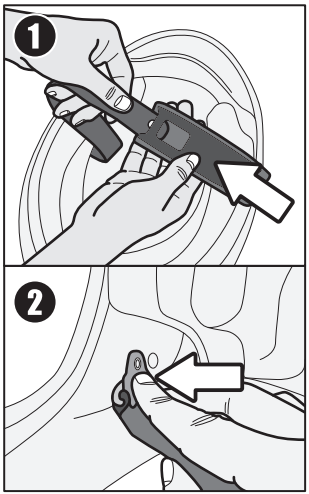


右側ストラップカバーの取り付け

❶カバーの裏（合皮側）を手前に向け、長い方のあご紐をカバーに差し込みます。

❷カバーハンガーを、あご紐の金属製アンカーに重ね合わせて押し付けます。





ストラップカバー未装着の状態でヘルメットを使用しないでください。また、ストラップカバーの取り付けが不十分だと、ヘルメットをかぶる際にストラップカバーが外れるおそれがあります。

T オプションパーツリスト

パーツ名		部品番号
VAS - V ポスト付シールド	クリアー	011054
	ライトスモーク	011053
	スモーク	011055
VAS - Vティアオフシールド（クリアー）		011065
VAS - V MVシールド	クリアー	011057
	セミスモーク	011056
	スモーク	011058
VAS - V MVピンロック120（クリアー）		011079
VAS - V ダブルレンズシールド	クリアー	011063
	セミスモーク	011064
VAS - Vホルダー	白	025428
	黒	025433

パーツ名		部品番号
RX−7Xレーシング・スポイラー	白	105121
	黒	105122
ICダクト3	白	104922
	黒	104955
VAS - Vシールドベース		021066
スーパーアドシスネジセット		112511
IP ディフレクター		082391
ES チンカバー V		075711
AR フォグフリーシート(クリア)		011083

オプションパーツに関する取扱いは、必ず付属する説明書の指示に従って装着してください。

アライヘルメットではヘルメットやパーツ類のお客様への直接販売を行なっていません。お客様のお近くのオートバイ用品取扱店にてご注文及びご購入ください。オプションパーツの価格につきましては、アライ製品のカタログやアライヘルメットのホームページをご参照ください。

パーツ名		部品番号
RACING EPシステムパッド	20mm（L）	055764
	25mm（S / M / XL）	055765
	30mm（XS）	055766
RX−7X EPシステム内装	Ⅱ−10mm（XS）	075682
	Ⅱ−7mm（S）	075683
	Ⅲ−10mm（M）	075686
	Ⅲ−7mm（L）	075687
RX−7X FIM EPシステム内装 Ⅳ−7mm（XL）		075693
RACING EPシステムネック	(XS/S)	075720
	(M/L)	075721
	(XL)	075722
RX−7X EPストラップカバー ※1		073616
RX−7X EPストラップカバー（大）※2		073617

※1：XS / Sサイズ用　※2：M / L / XLサイズ用

内装生地のコットン化について

ヘルメットの内装生地には化学繊維が使われています。しかし、天然素材以外は使用できないお客様のためにコットン（綿100%）内装の製作ご相談も、アライヘルメット品質管理部で受け付けております。

※コットン生地への変更は着脱式内装にのみ行われます。なおコットン内装の色は標準内装とは異なりますので予めご了承ください。

U ヘルメットの廃棄方法について

弊社での、ヘルメットのお引き取りは行なっておりません。お住まいの自治体の分別収集（ゴミ出しルール）に従って廃棄していただくか、購入したお店にお問い合わせいただきますようお願いいたします。

Arai HELMET®

Racing Specialities

Arai HELMET®

Racing Specialities

株式会社 アライヘルメット

〒330 - 0841 埼玉県さいたま市大宮区東町2- 12

TEL 048 - 641 - 3825

受付時間：午前9時～午後5時（土曜・日曜、祝日を除く）

ヘルメットに関するご質問ご相談は品質管理部まで。

TEL 048 - 645 - 3661

受付時間：午前9時～午後5時（土曜・日曜、祝日を除く）

250929-u1